

グローバル社会での外国人労働者との交流

2年3組31番 堀部まひろ

アブストラクト

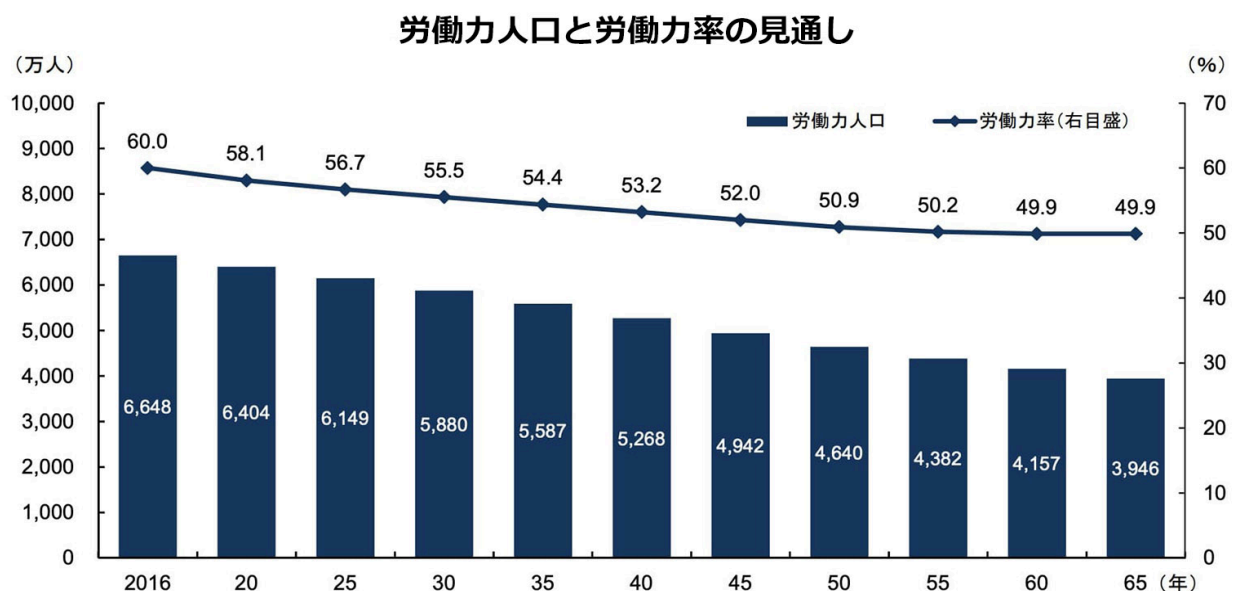
日本の現状は他国に比べ、グローバル化が進んでいない。しかし、労働力は外国から補っていることから外国人労働者と交流する機会があると考え、グローバル社会の観点から外国人労働者と文化や考え方の違いをこえてもっと交流を深める方法を探究した。

はじめに

グローバル社会とは、地域や国家のレベルを超えて、世界規模でお互いに影響を与え合う社会のことである。グローバル化は自由競争の推進・交通インフラ・情報社会の発展から進んでいるが、日本は他国に比べ遅い状況にある。そして、グローバル社会の観点から外国人労働者と文化や考え方の違いをこえてもっと交流を深める方法はあるのか仮説を立てた。

1 実験

グラフから日本の労働力人口・労働力の現状を調べる



(注) 2016年は実績。2020年以降は、男女別、年齢5歳階級別の労働力率を2016年と同じとして算出(75歳以上は、2016年の75歳以上の労働力率を75～79歳の労働力率とし、80歳以上はゼロとして算出)。

(資料) 総務省「労働力調査年報」(2016年)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2017年4月推計)より、みずほ総合研究所作成

2 考察

日本の労働力人口・労働力は減少傾向にある。そこで、労働力を外国から補っていることに気づいた。そこから、外国人労働者とどのように交流していくべきか気になった。

3 まとめと結論

結論として私は外国人労働者と交流することは仕事をするうえでの環境づくりの一つとして大切だと思った。交流する仕方として私は相手の国について理解を深めていき話の話題を広めていくことで仲良くなれ、交流が深まるのではないかと考えた。

4 課題

課題として、交流する方法が見つかって実行に移すまで探究が進んでいないことだと思います。

5 参考文献

データで見る少子高齢化と労働人口減少の予測

<https://www.konicaminolta.jp/business/solution/ejikan/column/workforce/declining-workforce/index.html>

「外国人技能実習生⇄地域」のつながりを積極的に

<https://www.sun-coop.jp/2022/07/29/connection/>